

## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流	
施策	①国内外における文化交流の推進と発信力の強化		
(施策の小項目)	○沖縄文化を軸とした世界との交流・発信		
主な取組	芸術文化国際交流(書道) (グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)	実施計画 記載頁	51
対応する 主な課題	○文化は交流により育まれ、互いの文化を理解しあうことにより発展するため、国際的な文化交流イベントから草の根レベルの交流活動まで幅広い取組を強化していくことが求められている。		

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	本県の高校生と台湾の高校生の文化交流を通して相互理解を深め、本県及び外国の文化の振興に寄与するとともに、本県高校生の文化活動の充実・発展に資する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	10人 派遣人数	20人	→	→	→	→	県
	高校生を台湾へ派遣し、文化交流を実施						
担当部課	教育庁文化財課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム(書道)	2,110	2,110	書道分野で活躍する高校生を台湾へ派遣し、文化交流を実施した。派遣人数について、計画値20人に対し、実績値20人となった。 本事業はH24で「沖縄県高校生国際文化交流派遣事業」として実施したが、H25から「グローバル・リーダー育成海外短期研修事業(沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム)」に本事業を統合した。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
派遣数 (国際交流事業への派遣者数)			20人 (25年)	20人 (25年)
推進状況	平成25年度取組の効果			
順調	高校生の派遣人員を平成24年度実績13名からH25は20名に増員できた。(65%増) 台湾では、現地の高校に相当する、台北市立第一女子高級中学、師範大附属高級中学との有意義な交流を行った。また、淡江大学中国語文学科にて張丙高教授から指導を受け、大学生との交流を行い、生徒達は書の文化にも違いがあることに驚いた様子であった。 外国におけるコミュニケーションのとり方や文化の違いを肌で感じ、実際に見聞きすることで、相互理解が進み研修の効果が高まった。			

様式1(主な取組)

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成26年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム(書道)	3,858	書道分野で活躍する高校生20名を台湾へ派遣し文化交流を実施する。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の台北事務所や台湾の関係機関に協力を依頼し、交流先に関する情報交換を行っており、有望な情報を得ている。台湾での交流先校の決定後は、現地を訪問し、交流内容や生徒同士の交流時間について十分な事前調整を行う予定である。前年度で交流先を確定することは、台湾は9月開始のため時期的に難しいとのこと。</li> <li>・派遣国について、書道は東アジアでのみ普及しており、先進的で国内情勢が安定していることから、平成26年度も台湾を選定した。交流先校も安定した交流を望んでいることもあり、今後の派遣国としては台湾を継続したい。</li> <li>・書道の専門家(大学の先生)からのアドバイスを受けることで、生徒たちは専門分野における自身につながり、今後の活動への意欲につながった。</li> <li>・高校生同士の交流の中で、コミュニケーションのとり方や文化の違いを肌で感じ、実際に他国の文化を見聞きすることで、相互理解が推進できた。</li> </ul>
---

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
文化交流を目的に海外へ派遣した生徒数(累計)	10人(23年)	152人(25年)	350人	142人	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>○書道分野は平成24年度実績13名、平成25年度20名を台湾へ派遣した。今後も毎年20名を派遣していく予定。</li> <li>○派遣団員は、貴重な国際交流を体験したことで、異文化に対する理解を深め、日本や郷土の良さを再認識するとともに、少なからず海外(外国)への関心が高まった。</li> <li>○今後も、本事業の取組を継続していくことで、平成28年度目標値の達成は可能と思われる。</li> </ul>				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・書道分野は台湾へ派遣し、安全な環境で現地の進学校との交流を行う事ができた。</li> <li>・交流先の学校では英語教育が進んでおり、意思疎通は英語で行われた。生徒達は、英語が話せないもどかしさを感じていたようである。</li> <li>・現地の事前調査では、実際に派遣生徒が受入校で受ける授業の内容や、故宮博物院等視察先での動線を確認する事で、本番での交流が安全かつ円滑に進行できた。文化や習慣の大きく異なる外国では、こうした事前調整を行うことが、事業を推進する上で重要である。</li> </ul>
---

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常会話程度の英語力を身につけることで、当研修の効果がさらに高まる。</li> <li>・本番での交流に支障を来さないため、事前調査を行い、さらに効果的なプログラムを検討する必要がある。</li> </ul>
--

4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・各研修にかかる時間は限られているため、効率的な学習ができるよう事前研修での語学関係の授業内容や時間を工夫し、各自の取り組みを促す。各自の体験、感じたことを発表することで共有し、今後の進路につなげるための事後研修を検討・実施する。</li> <li>・事前調査を確実にし、安定した交流先を確保するとともに、相互理解促進につながる文化交流プログラムの検討を行う。</li> </ul>
--

## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流	
施策	①国内外における文化交流の推進と発信力の強化		
(施策の小項目)	○沖縄文化を軸とした世界との交流・発信		
主な取組	芸術文化国際交流 (グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)	実施計画 記載頁	51
対応する 主な課題	○文化は交流により育まれ、互いの文化を理解しあうことにより発展するため、国際的な文化交流イベントから草の根レベルの交流活動まで幅広い取組を強化していくことが求められている。		

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	本県の高校生をシンガポール等へ派遣し、諸外国の高校生の文化交流を通して相互理解を深め、本県及び外国の文化の振興に寄与するとともに、本県高校生の文化活動の充実・発展に資する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	60人 派遣数				→	→	県
	高校生等をシンガポール等へ派遣し、文化交流を実施						
担当部課	教育庁文化財課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム	13,455	13,133	「音楽」「美術・工芸」「郷土芸能」の芸術分野で活躍する高校生をシンガポールへ派遣し文化交流を実施した。 派遣人数について、計画値60人に対し、派遣直前でインフルエンザ罹患による辞退者が出たため、実績値59人となった。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
派遣人数 (高校生の短期研修)			60人 (25年)	59人 (25年)
推進状況	平成25年度取組の効果			
順調	音楽、美術・工芸、郷土芸能の各分野について、総勢59人を派遣することができた。参加生徒は、外国でのコミュニケーションのとり方や文化の違いを肌で感じ、相互理解が進んだものと評価できる。事前の調整に苦慮したが交流先の確保ができたのは成果と言える。 シンガポールでも、芸術分野で優秀な学校との交流を実施した。生徒たちは大いに刺激を受けており、各分野の向上心育成に効果があった。 特に、美術・工芸分野はSOTA(シンガポール国立のアートスクール)との交流を行い、より専門的な指導を受けることができ、充実した研修内容となった。			

#### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成26年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム	22,757	芸術分野で活躍する高校生を海外へ派遣し文化交流を実施する。 ①「美術・工芸」「郷土芸能」分野をシンガポールへ派遣。(20名×2) ②「音楽」分野をオーストリア(ウィーン)へ派遣し交流する。(20名×1) 合計=60名	一括交付金 (ソフト)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

・県の海外事務所や国の在外公館等と、交流先に関する情報交換を行っており、有望な情報を得ている。交流先の決定後は、現地の交流先校を訪問し、交流内容や生徒同士の交流時間について十分な事前調整を行う予定である。

・派遣先国について、国内情勢が比較的安定しており、各分野の先進的な国として、音楽分野は西洋音楽の先進的な国であるオーストリアへ、美術・工芸、郷土芸能分野は多様な民族や文化が共存し、独自の文化的発展を遂げているシンガポールへの派遣を予定している。

・前年度中の交流先確定に向けた取り組みについて、外国は9月に新年度開始であり、訪問先国の関係者によると、4月～7月の交流であれば前年度中に調整を開始したほうがよいが、9月以降の場合は人事異動で学校の体制も変わるため、6、7月頃からの調整が良いのではとのことであった。

当該事業については、6～9月に選抜し、9月以降の派遣となるため、本年度に入ってから交流先の調整を行っている。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
文化交流を目的に海外へ派遣した生徒数(累計)	10人 (23年)	152人 (25年)	350人	142人	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

**状況説明**

前年度に引き続き、音楽、美術・工芸、郷土芸能3分野60名の派遣を計画していたが、直前にインフルエンザに罹患する生徒が生じ、59人となった。現状値の79人は書道分野の20人を含めた数値である。

派遣された高校生は、この貴重な国際文化交流をとおして、異文化に対する理解を深め、日本や郷土の良さを再認識するとともに、海外(外国)への関心が一層高まった。

今後も、本事業の取組を継続していくことで、平成28年度目標値の達成は概ね可能と思われる。

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

・当初、音楽、美術・工芸、郷土芸能の3分野をシンガポールへ派遣したが、音楽についてはより先進的な国であるオーストリア(ウィーン)へと派遣先を変更した。

・交流先が分散したことで、交流先の負担軽減となった。

・状況は毎年変化するため、受入先国の動向を注視する必要がある。

・連携や研修内容についても、事前調査により受入先の状況を把握したうえで調整を行っている。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・交流先については政情や環境面を考慮し、安定した国や地域を選定する必要がある。

・事前調査を確実にし、本番での交流に支障をきたさないように予算を計上するほか、相互理解促進につながる文化交流プログラムづくりに注力する。

・交流先の負担軽減を行う事で、質の高い交流の可能性を検討する。

4 取組の改善案(Action)

・交流先校の確定について、県の出先機関(県事務所)や関係部署に協力を依頼する。

・交流内容をより充実したものにするため予算を確保し、綿密な事前調査を行う。

・派遣先国について、安全性及び先進性を考慮し、美術・工芸、郷土芸能分野ではシンガポール、音楽分野ではオーストリアと交流を継続する。外交情勢を見極め、安全性については常に検証を行う。

・交流先の負担軽減を図る一方で、交流先校での体験授業や生徒同士の交流活動を行うことで国際性を養い、現地の高いレベルの指導を受けることで向上心を養う等、その時々の中で質の高い交流プログラムづくりを行う。